

第 11 期Bコース（アメリカ合衆国）帰国レポート

令和 5 年 8 月、東京から出発した第 11 期生の研修生たちは、約 10 か月間のアメリカ留学を終え、無事に日本に帰国しました。研修生たちはアメリカ中部のイリノイ州、ミシガン州、インディアナ州、ウィスコンシン州の 4 州で学び、各地でホストファミリーと共に生活をしながら現地の学校に通いました。研修生は約 10 カ月の間、多くの経験を積み、大きく成長し帰国しました。

帰国前には、シカゴで 2 日間にわたる特別プログラムを行いました。特別プログラムは、研修生が留學生活で得た知識や経験を振り返り、未来に向けてのステップを考える場として設けられています。研修生は、留學生活の総括を行うとともに、今後の進路に向けて考える貴重な機会を得ることができました。



＜研修生と特別プログラム会場まで研修生を見送りに来たホストファミリー＞

特別プログラムの概要

【第一日目】

特別プログラムの初日、研修生は現地の高校で進路指導に携わっている先生から、アメリカの大学の進学ガイダンスを受けるとともに、実際に高校からアメリカに留学していたタイの留学生からアメリカの大学での学生生活についてお話を伺いました。研修生は、お話の内容のポイントを一つ一つ書き取り、傾きながら熱心に聞き入っていました。このタイの留学生は研修生と同じく、高校から留学をした学生であったことから、研修生は親近感を感じていた様子でした。

また、Letter Project では、「アメリカの留學生活でお世話になった方に感謝の手紙を書く」という活動を行いました。これまで、感謝の気持ちを口頭でうまく伝えられなかった研修生もいたようで、想いを単語やフレーズにのせて、手紙を綴っていました。



＜アメリカ大学進学ガイダンス＞



＜Letter Project＞

【第二日目】

アメリカ、シカゴのノースウェスタン大学を訪問しました。ノースウェスタン大学は、優れた研究環境が整っていることで知られており、キャンパスツアーではその魅力を存分に感じることができました。研修生は、大学のキャンパス内を見学しながら、先端技術を取り入れた研究施設や歴史的な建物を見学しました。また、大学の留學生課のスタッフから、アメリカの大学での学びや生活に関する具体的なアドバイスを受け、大学生活についても理解を深めることができました。これにより、将来の進学先としての選択肢が具体的に見えてきた研修生も多く、海外大学進学への意欲が更に高まる結果となりました。



＜ノースウェスタン大学の訪問＞

ノースウェスタン大学訪問後、特別プログラムの会場に戻った研修生は各自の留学体験を振り返り、グループでプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、留学中に取り組んだ活動や授業でのプロジェクト、現地で学んだスキルや文化的な体験などを発表しました。例えば、ある研修生はアメリカでの日本文化の発信活動を通じて得た経験や学びを具体的に紹介し、別の研修生は授業で取り組んだプロジェクトや成果を発表しました。各研修生の発表からは、留学を通じての成長や挑戦、そして得られた知識や経験の深さが伝わってきました。



＜グループプレゼンテーションの様子＞

解団式

羽田空港に到着後、解団式を実施しました。解団式では引率した東京都教職員研修センターの職員から、「このゲートを出たら終わりではなく、始まりです。」「これまでの経験を周りの友達や学校、東京都に還元してください。」とこれからの研修生の成長と活躍に期待するメッセージが贈られました。研修生は職員の言葉から、約10か月間の留学生生活を今後の人生に生かすこと、そして、各自が新たな挑戦に向けて意気込みを新たにすることを改めて強くした様子でした。

留学中に学んだことや体験したことは、研修生の今後の人生やキャリアに大いに役立つことでしょう。アメリカ合衆国の中部出身の作家ジョン・スタインバックは、『エデンの東 (East of Eden)』の中で、「“It”’s the way that you are, not the way you think, that will determine what you do.”（人間は、その目的を達成するためにはどれほど困難な道を選ぶべきかを知ることが大切だ。）」という言葉を残しています。この言葉は、個人の内面の姿勢が行動や結果にどれほど大きな影響を与えるかを示しています。

これからも、研修生には、留学で得た貴重な経験を生かし、困難に直面しても前向きに進んでいく力を持続してほしいと願っています。そして、次代のリーダーとして成長し、東京都、日本、そして世界に貢献できる人材となることを心から期待しています。